



Photography

輝き・やすらぎ・賑わい



えびす昭和横丁(土佐山田町)

編集後記

去る八月三十日の第四十五回衆議院選挙は、民主党が三百八議席を獲得し、政権交代が現実のものとなった。

我々日本人は、政権交代に慣れていない。慣れていないと言うよりは、本格的な政権交代は半世紀以上もの間なかったもので、私にとっても初めての経験となった。先進国の民主主義国家では、政権交代は当たり前のことであるのだが、経験のない日本国民としては、期待と不安が錯綜する今日この頃ではないだろうか。

アメリカでは、今年一月にオバマ政権が誕生し、八年ぶりの政権交代があった。すると政権交代と同時に、過去八年間アメリカが推進してきた政策はことごとく転換され、まるで違う国になったかのような変化をした。こ

の劇的な変化が、まさに政権交代である。

国を治める仕事を、国民の意思で一方の政治勢力にゆだねてみて、うまくいけばよし、そうでなければ、別の政治勢力にやらせてみる。この繰り返しによって、透明性や健全性を維持することが、民主主義の強みであり、本来の姿だと思ふ。

今回、日本でも新しい政治勢力が政権の座についてしたことにより、この国がどう変わるのか。また、そこに住む国民の生活がどう変わるのかを真剣に考え、準備しておく必要がある。はしないか。

新政権下で地方分権が大きく前進することが予想される中、議会のチェック機能や政策提言力は、これまで以上にその責任が大きくなると言わざるを得ない。

(K)